

神美地区 (豊岡地域)



神美地区は、豊岡市の東部に位置し、中山間地域と平坦地域の2つの地域があり、稲作を中心として農地が管理されています。

私が、農地利用最適化推進委員となり、約3年、推進委員として、地区内をパトロールし、遊休農地を確認しています。

農地パトロールをして感じたことは、小さな変化はあるが、大きな変化は見られていません。

平坦地域では、担い手と呼ばれる大規模農家を中心として、農地が集積・集約化され、水稲を中心に農地が管理されているため、当面は、心配ないと感じています。



ビオトープとなった水田

一方、中山間地域においては、大規模農家はいませんが、個々の農家において水稲が作付されています。

また、当地区は次のとおり、様々な方法で農地管理が行われています。

①耕作困難な田を荒廃・山地化しないように草刈りしている
②中間管理機構を利用し、利用調整を実施している

③地区内の耕作者、区民で年1回、草刈り、耕うんしか行っていない農地を、昨年、地区の景観と農地を守るため、区長が先導となりビオトープとした

④区民一丸となり、農道整備、用排水路の確保のため、水路の維持管理を実施している地区があり、幸い、今のところ、多数の遊休農地は、確認していません。

今後は、高齢化、担い手不足による遊休農地が増えていくと思います。

農地を守るため、農家の皆さんと話し合い、知恵を出し合ってくださいと思います。

(推進委員 栗原 安信)



栗原推進委員
神美地区



北垣農業委員
新田・神美地区

小野地区 (出石地域)



出石地域の小野地区は豊岡市の南東に位置し、平野部を中心に水稲作付面積は約百六十畝あります。

地区を構成する行政区は、4区あり、宮内区は平野部中心で、農地が約五十畝あり、人・農地プランを作成され、袴狭区も平野部中心で約五十五畝あり、集落営農組合が法人化されています。

口小野区は、平野部約二十三畝、山間部が約六畝、奥小野区は中山間地で約二十七畝でそれぞれ核となる方々が水稲を中心に頑張っておられます。

しかし近年、鹿やイノシシ等の獣害がひどくなり、口小野と袴狭区の一部で、ワイヤーメッシュ柵で、それ以外の地区は、電気柵等で防止対策を行っています。

頑丈で効果の高いワイヤーメッシュ柵ですが、行政の補助を受けても、地元負担が高額、施工の問題もあり、なかなか普及していません。山間部ではさらに、地形も複雑



宮内区岡田のソバ

で維持管理も手間がかかります。

また、将来高齢化が進むと維持管理が困難になると思われます。

その中で、宮内区の山間地の岡田では、このままでは、農地が山に変わってしまうとの思いから、一部ですが、今年から、ソバの栽培を始められました。また、区内の畜産農家と連携し、和牛の放牧も検討されています。

地域で獣害対策や農地の改良を行えば、農地を守っていけるのではと感じています。

私自身が新規就農した時も獣害で苦労したため、守れる農地は、条件を整え、若手農家や新規就農者に参入してもらえたらと思っています。

最後に、山間地も含めて農地を次の世代に引き継げるように地域の方々と一緒に頑張っていきたいです。

(推進委員 中務 嘉紹)



中務推進委員
小野地区



大原農業委員
小野地区・小坂(田多)・安良地区

昔から農家や地域で大切に守られてきた多くの伝統農産物や特産農産物等を皆さんに知ってもらい地域農業の振興に役立ててもらうため、平成28年度にマップを作成しました。(No.36農委だより)特集で農産物等を紹介したいと思います。今回は“つるし柿”です。

『もつたいたい』を特産物へ 神鍋つるし柿

つるし柿の効能は、カリウム、食物繊維を豊富に含み、血圧の上昇を抑え、生活習慣病予防にも効果があると言われています。

神鍋高原は、標高が高く日本海からの寒風を受け、良質のつるし柿が仕上がります。十一月中旬を過ぎると、各農家の軒先には、山々の紅葉に合わせ、つるし柿のすだれが現れます。

三十年程前、神鍋高原のお土産になるものを探していた時、たわ



家の軒下に吊るされた柿

わに実る柿をみて、「もつたいたいなあ」と思い、これを特産物にできないかと試行錯誤し、たりついたのが、このつるし柿でした。

その後、神鍋つるし柿生産組合が設立されました

材料の柿は、**大美濃柿**と**平核**

無柿で、農家から柿を集めることから始め、皮むきをお願いし、今は、栗栖野の作業場に集められます。皮むきは機械でも行いますが、効率化は、農家の女性の包丁さばきには敵わないそうです。

集荷した柿は、**硫黄燻蒸**、自然乾燥し、渋みを抜きます。随



自然乾燥の様子

時、手もみして肉質を均一化しながら、風乾燥を続けます。果糖が結晶し、表面に粉が吹いてくると脱酸素剤を使用し、真空パックします。

現在は、地元の農業生産法人「(株)Teams」と業務提携し、販路も拡大し、道の駅「神鍋高原」を始め、但馬各地のスーパー、土産物店に並びます。

生産者の一人の北村哲三さん(日高町山宮)は、「今、一番の問題は、後継者がいないこと。何とか次の世代へ引き継ぎたい。」と熱く語っておられました。

来年的お正月には、神鍋つるし柿で、より一層の実りになればと思います。

(農業委員 原 清美)



神鍋つるし柿

地域の農家を応援する

(有) 原田 種 苗 店

豊岡市弥栄町4-56 TEL(0796)23-0567